

台湾人日本語学習者のアクセント

——アクセントの実態・習得に関わる要因・教育への要望——

楊 文瑾

| | | |
|----|--|-------------------------------|
| 目次 | 1 はじめに | 2 調査の概要 |
| | 3 台湾人日本語学習者のアクセント | 4 被調査者の学習歴とアクセント点数の相関関係 |
| | 5 被調査者の日本語力とアクセント点数の相関関係 | 6 アクセントについて受けた指導とアクセント点数の相関関係 |
| | 7 アクセントに関する知識とアクセント点数の相関関係 | 8 アクセント・アクセント学習に関する被調査者の考え |
| | 9 アクセント・アクセント学習に関する被調査者の考えと、アクセントの点数との相関 | 10 おわりに |

1 はじめに

近年、台湾において、日本語学習者の数は大幅な増加を見せ、それに伴い、大学や高校や専門学校などの日本語関連学科が次々と新設され、また民間の日本語塾も増えている。日本語を習得するために、台湾国内の日本語教育機関だけではなく、日本に留学してこの日本語学校に行く人も多い。

しかし、第二外国語としての日本語教育が盛んである一方、しばしば、徹底的且つ有効的なアクセント教育はあまり行われていない。そこで、本論文では、以下のような事柄についての調査結果を報告し、今後のアクセント教育の改善に役立てたい。

- ①台湾人日本語学習者のアクセントの実態がどのようなものなのか
- ②アクセントの習得がどのような条件と関係しているのか
- ③アクセント教育について、学習者が何を求めているのか

2 調査の概要

調査の概要は以下の通りである。

1 調査期間・・・2010年8月～10月。

2 被調査台湾人日本語学習者人数・・・60人（台湾在住日本語学習者[以下「**台湾在住者**」]30人、日本在住台湾人日本語学習者[以下「**日本在住者**」]30人）。但し、調査項目によっては全員分揃っていない場合がある。

3 年齢・母語など・・・全員20代の成人で、母語はすべて中国語である。

4 被調査者の現在の所属

日本在住者・・・日本語学校卒日本の大学に在学（非日本語専攻）している者1名・日本語学校卒日本の専門学校に在学している者5名・台湾の大学卒日本の専門学校に在学している者4名・台湾の大学卒（日本語専攻）で日本の日本語学校に在学している者4名・台湾の大学卒（非日本語専攻）で日本の日本語学校に在学している者16名。日本在住日本語学習者30名全員関西在住である。

台湾在住者・・・台湾の大学に在学している非日本語専攻者3名・台湾の日本語塾に在学している非日本語専攻者2名・台湾の専門学校日本語学科に在学している者1名・台湾の大学に在学している日本語専攻者9名・台湾の大学（日本語専攻）卒業15名。

5 被調査者の日本語学習歴

被調査者の学習歴を下の9つの表にまとめた。表から次のようなことがわかる。1 日本語の学習開始年齢は21-24歳（大学生の年齢）が多い。2 学習期間は比較的長い人が多い。3 学習機関は、台湾在住者は台湾の大学で学習した人が多いが、日本在住者はばらばらについている。4 日本人との接触は日本在住者のほうが多い。5 日本在住者の日本への到着年齢はほぼ20代である。6 日本での滞在期間は、日本在住者は半年以上がほとんどで、台湾在住者は短期の旅行が多い。7 台湾在住者の中には日本に来たことがない人もある。8 日本滞在目的は、日本在住者は留学が多く、台湾在住者は旅行が多い。9 日本語能力試験については、日本在住者・台湾在住者ともほぼ同じレベルで、2級合格レベルがもっとも多い。

| 1. 日本語学習開始年齢 | 日本 | 台湾 |
|--------------|----|----|
| 15歳未満 | 0 | 1 |
| 15-17歳 | 1 | 0 |
| 18-20歳 | 2 | 6 |
| 21-24歳 | 20 | 19 |
| 25-29歳 | 7 | 4 |

| 2. 学習期間 | 日本 | 台湾 |
|----------|----|----|
| 3ヶ月未満 | 0 | 0 |
| 3~6ヶ月未満 | 1 | 0 |
| 6ヶ月~1年未満 | 6 | 1 |
| 1年~2年未満 | 10 | 6 |
| 2年以上 | 13 | 23 |

| 3. 学習機関 | 日本 | 台湾 | | 日本 | 台湾 | | 日本 | 台湾 |
|---------------|----|----|------------------|----|----|---------------------------|----|----|
| 台湾の日本語塾 | 0 | 2 | 台湾の日本語塾・日本の日本語学校 | 13 | 0 | 台湾の日本語塾・台湾の専門学校・日本の日本語学校 | 1 | 0 |
| 台湾の専門学校 | 0 | 1 | 台湾の専門学校・台湾の大学 | 0 | 1 | 台湾の日本語塾・台湾の大学・自学 | 0 | 3 |
| 台湾の大学 | 7 | 12 | 台湾の高校・台湾の大学 | 0 | 1 | 台湾の日本語塾・自学・日本の日本語学校 | 1 | 0 |
| 日本の日本語学校 | 3 | 0 | 台湾の大学・自学 | 0 | 5 | 台湾の日本語塾・台湾の大学・自学・日本の日本語学校 | 2 | 0 |
| 日本の大学 | 0 | 1 | 台湾の大学・日本の日本語学校 | 3 | 0 | 台湾の高校・台湾の大学・日本の日本語学校 | 0 | 1 |
| 台湾の日本語塾・台湾の大学 | 0 | 1 | 台湾の大学・日本の大学 | 0 | 1 | 台湾の高校・台湾の大学・自学・日本の大学 | 0 | 1 |

| 4. 日本人との接触程度 | 日本 | 台湾 |
|--------------|----|----|
| 無し | 2 | 11 |
| 1週1回以上 | 10 | 8 |
| ほぼ毎日 | 15 | 6 |
| 1ヶ月1回以上 | 3 | 5 |

| 5. 日本への到着年齢(日本のみ) | | 26歳 | 1 |
|-------------------|---|-----|---|
| 18歳 | 2 | 27歳 | 2 |
| 22歳 | 3 | 28歳 | 4 |
| 23歳 | 2 | 29歳 | 1 |
| 24歳 | 4 | 33歳 | 1 |
| 25歳 | 5 | 不明 | 4 |

| 6. 日本滞在期間(合計) | 日本 | 台湾 |
|---------------|----|----|
| 1週間未満 | 3 | 7 |
| 1週間~1ヶ月未満 | 2 | 9 |
| 1ヶ月~半年 | 0 | 2 |
| 半年~1年未満 | 10 | 3 |
| 1年以上 | 13 | 9 |
| 不明 | 2 | 0 |

| 7. 日本滞在経験(台湾のみ) | |
|-----------------|----|
| 無 | 7 |
| 有 | 21 |
| 渡日回数 | |
| 5回以下 | 19 |
| 20回以上 | 2 |
| 不明 | 9 |

| 8. 滞在目的(複数回答可) | 日本 | 台湾 |
|----------------|----|----|
| 研修 | 0 | 2 |
| 留学 | 17 | 0 |
| 留学・仕事 | 1 | 0 |
| 旅行 | 5 | 13 |
| 旅行・仕事 | 1 | 0 |
| 旅行・留学 | 4 | 0 |
| 旅行・留学・仕事 | 2 | 0 |
| ワーキングホリデー | 0 | 1 |
| 不明 | 1 | 1 |

| 9. 日本語能力試験 | 日本 | 台湾 |
|------------|----|----|
| 受験せず | 3 | 3 |
| 4級合格 | 1 | 2 |
| 3級合格 | 7 | 7 |
| 2級合格 | 12 | 12 |
| 1級合格 | 7 | 6 |

台湾での調査については、ご多忙の中、銘伝大学応用日本語学科王佑心先生に、大変お世話になりました。謝意を表したいと存じます。協力して下さった被調査者の方にも御礼を申し上げたいと存じます。

3 台湾人日本語学習者のアクセント

3.1 調査項目

アクセントに関する調査項目は3つの部分から構成される。

1. 被調査者の発音・・・被調査者に書いてある日本語の語句を音読してもらう
 2. 聞き取り・・・上の「1. 発音」と同じ語句をさまざまなアクセントで発音したものを聞き、どれが正しい標準語アクセントだと思うかを選ぶ
 3. 無意味語の聞き取り・・・ママなどの無意味語をさまざまな音調で発音したものを聞き、正しいと思うアクセント記号を選ぶ
- 1→2→3の順に説明するが、実際の調査は1→3→2の順に行った。

3.2 被調査者の発音

発音のリストは単語22と連語6からなる。

3.2.1 単語アクセント

被調査者に標準語アクセントで以下の単語を2回ずつ読んでもらった。それを録音し、私が聞き取った。聞き取りの結果のアクセントの記号は、語頭から数えた核の有無と位置(0, 1, 2, 3...)で示す。但し、単語単独だけの発音しか調査せず、付属語付きは調査していないため、尾高型と平板型は区別できない。そこで、尾高型と平板型はまとめて、平板型(0)を示すことをここで断っておく。句頭の上昇位置はほぼ標準語と同じである。2例ほど最初から高くなることもあったが、その場合はH(高)とL(低)でアクセントを示す。

発音してもらった単語と、その標準語のアクセントは以下の通りである。

| 拍数 | 2拍 | | 3拍 | |
|--------|----|----|----|-----|
| アクセント核 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 調査語 | 行く | 来る | 貰う | 食べる |
| | 寝る | 飲む | | |

| 名詞 | | | | | | | | | | | |
|--------|----|---|-----|-----|----|-------|------|-----|-------|------|-------|
| 拍数 | 2拍 | | 3拍 | 4拍 | | 5拍 | | | 6拍 | 7拍 | |
| アクセント核 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 4 | 4 | 4 | 5 |
| 調査語 | 花 | 赤 | 命 | 日本語 | 今晚 | 田中さん | 佐藤さん | 日本人 | アメリカ人 | 神戸大学 | 日本語学科 |
| | 虫 | | 神戸 | | | こんばんは | 花子さん | | | | |
| | | | チーム | | | | | | | | |

学習者の発音の結果は以下のとおりである。()内が正しい標準語アクセント。例えば「0→1 5人」は標準語アクセントが0、間違えて1で発音した学習者が5人であることを示す。

| 日本在住者 | | | | | | | | |
|-------|---------|---------|--------|----------|----------|---------|---------|----------|
| 単語・正解 | 花(0) | 赤(1) | 虫(0) | 命(1) | 田中さん(0) | 佐藤さん(1) | 花子さん(1) | |
| 誤 | 0→1 5人 | 1→0 4人 | 0→1 7人 | 1→0 1人 | 0→2 3人 | 1→2 8人 | 1→0 6人 | |
| | | | | 1→2 9人 | | 1→0 4人 | 1→2 7人 | |
| 正解率 | 0.83 | 0.86 | 0.76 | 0.66 | 0.86 | 0.6 | 0.5 | |
| 単語・正解 | 神戸(1) | 神戸大学(4) | 行く(0) | 来る(1) | 寝る(0) | 飲む(1) | 食べる(2) | |
| 誤 | | 4→0 1人 | 0→1 1人 | | 0→1 17人 | 1→0 6人 | 2→0 4人 | |
| 正解率 | 1 | 0.6 | 0.96 | 1 | 0.4 | 0.8 | 0.86 | |
| 単語・正解 | 貰う(0) | 今晚(1) | チーム(1) | こんばんは(0) | アメリカ人(4) | 日本人(4) | 日本語(0) | 日本語学科(5) |
| 誤 | 0→2 12人 | 1→0 5人 | | 0→1 1人 | 4→5 3人 | 4→2 13人 | 0→3 2人 | 5→0 2人 |
| | | | | | 4→3 2人 | 4→3 4人 | 0→2 2人 | |
| 正解率 | 0.6 | 0.83 | 1 | 0.96 | 0.8 | 0.43 | 0.86 | 0.9 |

| 台湾在住者 | | | | | | | | |
|-------|--------|-----------|--------|----------|----------|---------|---------|----------|
| 単語・正解 | 花(0) | 赤(1) | 虫(0) | 命(1) | 田中さん(0) | 佐藤さん(1) | 花子さん(1) | |
| 誤 | 0→1 1人 | 1→0 1人 | 0→1 3人 | 1→0 2人 | 0→2 1人 | 1→2 4人 | 1→0 2人 | |
| | | | | 1→2 3人 | 0→3 4人 | | 1→2 5人 | |
| | | | | | | | 1→3 9人 | |
| 正解率 | 0.97 | 0.97 | 0.8 | 0.73 | 0.8 | 0.77 | 0.33 | |
| 単語・正解 | 神戸(1) | 神戸大学(4) | 行く(0) | 来る(1) | 寝る(0) | 飲む(1) | 食べる(2) | |
| 誤 | | 4→0 3人 | 0→1 1人 | | 0→1 12人 | 1→0 8人 | 2→0 1人 | |
| | | 4→1 5人 | | | | | HHL→2人 | |
| | | 4→1, 4 1人 | | | | | | |
| | | 4→6 3人 | | | | | | |
| 正解率 | 1 | 0.5 | 0.97 | 1 | 0.5 | 0.67 | 0.8 | |
| 単語・正解 | 貰う(0) | 今晚(1) | チーム(1) | こんばんは(0) | アメリカ人(4) | 日本人(4) | 日本語(0) | 日本語学科(5) |
| 誤 | 0→2 9人 | 1→0 3人 | | 0→1 1人 | | 4→3 14人 | 0→3 1人 | |
| 平均値 | 0.63 | 0.87 | 1 | 0.97 | 1 | 0.47 | 0.97 | 1 |

正答率の特徴をまとめてみよう。

誤答率の高い単語について、よく間違えるアクセントのパターンをまとめてみよう。

1. 「神戸大学」のような長い複合語は2つに分けてしまう。表で1としたのは、「神戸1+大学0」が正しいかもしれない。
2. 動詞の終止形は-2型ですべて発音してしまう。そのため、「寝る」を1で発音したり、「貰う」を2で発音したりする。しか

し、「行く」のように教科書で頻度が高いと思われる語は習得が進んでいる。

3. 「日本人」は非常に間違いが多い。「～人」の中で、例外的なアクセントをもっているからである。一般に「～人」は…〇'ジン(〇が特殊拍のときはもう1拍左にずれる)だが、ニホンジンとなる。こういうアクセントはよく間違ふ。

4. 「人名+さん」のアクセントも間違いが多い。複合名詞は、前の要素の単語をそれだけで発音した場合とアクセントが変わることが多い。一方、「人名+サン」の場合は前の人名のアクセントがそのまま保たれる。そのために間違ふことが多いと考えられる。

一方、正解率が高かった項目について見てみよう。

1. 「チーム、神戸、来る」は正解率が1であるが、これはすべて頭高型である。潘(2003)でも頭高型の正答率が高いと指摘されている。

2. 学習者が頻繁に練習する語は正解率が高い。たとえば挨拶のコンバンワは間違いが非常に少ない。

3.2.2 連語アクセント

連語の標準語アクセントは以下のとおりである。全体を1まとまりに発音した場合を()の外に、2語を別別に発音した場合を()の中に示す。

| 拍数 | 4拍 | 6拍 | 8拍 | 9拍 |
|--------|----------------|--------------------|------------------|-----------------------|
| アクセント核 | 0LHHH(0+0LHLH) | 0LHHHHH(0+0LHHLHH) | 2LHLLL(2+0LHLLH) | 7LHHHHHHL(0+3LHHHLHL) |
| 内訳 | 行く場所 | 辞めた会社 | 見たい映画 食べる魚 | 教えた先生 働く会社員 |

全体を1まとまりに発音するほうが自然な発音だが、別別に発音したのもも正解として、以下の表を作った(▲は誤りの回答)。

| 日本在住者 | 教えた先生(7) | 見たい映画(2) | 働く会社員(7) | 辞めた会社(0) | 行く場所(0) | 食べる魚(2) |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 7=6人 | 2=2人 | 7=11人 | 0=19人 | 0=14人 | 2=23人 |
| | 7→0+3 15人 | 2→2+0 14人 | 7→0+3 10人 | 0→0+0 9人 | 0→0+0 12人 | 2→2+0 14人 |
| | ▲7→0 1人 | ▲2→0+0 1人 | ▲7→3+4 3人 | ▲0→2+0 3人 | ▲0→1+0 1人 | ▲2→0+0 3人 |
| | ▲7→0+1 2人 | ▲2→0+1 4人 | ▲7→3+3 5人 | ▲0→0+1 6人 | ▲LHLF 3人 | ▲2→0+1 3人 |
| | ▲7→3+0 4人 | ▲2→1+0 1人 | ▲7→3+0 1人 | ▲0→2+1 1人 | | ▲2→0 1人 |
| | ▲7→3+3 2人 | ▲2→2+1 4人 | | | | ▲2→2+1 2人 |
| 正解率 | 0.7 | 0.67 | 0.7 | 0.67 | 0.87 | 0.7 |

| 台湾在住者 | 教えた先生(7) | 見たい映画(2) | 働く会社員(7) | 辞めた会社(0) | 行く場所(0) | 食べる魚(2) |
|-------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| | 7=1人 | 2=2人 | 7=25人 | 0=7人 | 0=2人 | 2=0人 |
| | 7→0+3 24人 | 2→2+0 24人 | 7→0+3 5人 | 0→0+0 15人 | 0→0+0 26人 | 2→2+0 27人 |
| | ▲7→0 4人 | ▲2→0+1 3人 | | ▲0→2+0 8人 | ▲LHLF 1人 | ▲2→2+1 2人 |
| | ▲7→0+1 1人 | ▲2→1+0 2人 | | | | ▲LHLHF 1人 |
| 正解率 | 0.83 | 0.83 | 1 | 0.73 | 0.9 | 0.9 |

全体を1まとまりで発音した人が非常に少ないことがわかる。単語を単独で発音した場合のアクセントはある程度習得できているが、句を1まとまりに発音することは習得できていないと考えられる。

3.3 聞き取り

「聞き取り」は、「発音」と同じ語句を、さまざまなアクセントで発音した録音を聞き、そのうちどれが正しい標準語アクセントだと思うかを選ぶ課題である。何番目の発音が正しいと思うかを書けいので、アクセント記号は不要であるが、回答用紙にはアクセント記号も付けた。アクセント記号の説明は、後述の無意味語の聞き取りの項目のところで行った。回答用紙は、例えば「はな「花」①はな ②はな」の中から正しいと思うものを、発音を聞きながら選ぶ、というものである。

録音は私が行った。日本人に聞いてもらい、アクセントが高低2段階表記と一致していることを確認した。

3.3.1 単語アクセント

単語アクセントの聞き取り調査結果を以下にまとめる。

日本在住者

| 単語 | 花 | 赤 | 虫 | 命 | 田中さん | 佐藤さん | 花子さん |
|-----|-------|-------|-------|--------------|--------------|-----------------------------|--------------|
| 正解 | 0 19人 | 1 24人 | 0 28人 | 1 22人 | 0 23人 | 1 24人 | 1 23人 |
| 誤 | 1 9人 | 0 5人 | 1 1人 | 0 4人 2 3人 | 1 1人 2 5人 | 0 1人 2 4人 2 2 2 | 0 2人 2 4人 |
| 正解率 | 0.68 | 0.83 | 0.97 | 0.76 | 0.79 | 0.83 | 0.79 |

| 単語 | 神戸 | 神戸大学 | 行く | 来る | 寝る | 飲む | 食べる |
|-----|-------|--|-------|-------|-------|-------|--------------|
| 正解 | 1 27人 | 4 15人 | 0 25人 | 1 28人 | 1 15人 | 1 22人 | 2 23人 |
| 誤 | 2 2人 | 0 1人 1+0 2人 1+1 1人 2 1人 3 2人 5 6人 | 1 4人 | 0 1人 | 1 14人 | 0 7人 | 0 5人 1 1人 |
| 正解率 | 0.93 | 0.52 | 0.86 | 0.97 | 0.52 | 0.76 | 0.79 |

| 単語 | 貰う | 今晚 | チーム | 今晚は (挨拶) | アメリカ人 | 日本人 | 日本語 | 日本語学科 |
|-----|---------------|--------------|-------|--------------|----------------------|------------------------------|-------|----------------------|
| 正解 | 0 11人 | 1 25人 | 1 28人 | 1 27人 | 1 21人 | 4 12人 | 0 23人 | 5 25人 |
| 誤 | 1 1人 2 17人 | 0 2人 2 2人 | 2 1人 | 2 1人 3 1人 | 0 2人 3 2人 5 4人 | 0 6人 1 1人 2 7人 3 2人 | 2 6人 | 0 1人 3 1人 4 2人 |
| 正解率 | 0.38 | 0.86 | 0.97 | 0.93 | 0.72 | 0.41 | 0.79 | 0.86 |

台湾在住者

| 単語 | 花 | 赤 | 虫 | 命 | 田中さん | 佐藤さん | 花子さん |
|-----|-------|-------|-------|--------------|-------|--------------|--------------|
| 正解 | 0 23人 | 1 26人 | 0 25人 | 1 24人 | 0 30人 | 1 24人 | 1 18人 |
| 誤 | 1 7人 | 0 4人 | 1 5人 | 0 3人 2 3人 | | 0 3人 2 3人 | 0 5人 2 7人 |
| 正解率 | 0.77 | 0.87 | 0.83 | 0.8 | 1 | 0.8 | 0.6 |

| 単語 | 神戸 | 神戸大学 | 行く | 来る | 寝る | 飲む | 食べる |
|-----|--------------|--------------------------------|-------|-------|-------|--------------|--------------|
| 正解 | 1 21人 | 4 24人 | 0 30人 | 1 30人 | 0 24人 | 1 24人 | 2 25人 |
| 誤 | 0 8人 2 1人 | 0 2人 1+1 1人 2 1人 5 2人 | | | 1 6人 | 0 4人 1 2人 | 0 2人 1 3人 |
| 正解率 | 0.7 | 0.8 | 1 | 1 | 0.8 | 0.8 | 0.83 |

| 単語 | 貰う | 今晚 | チーム | 今晚は (挨拶) | アメリカ人 | 日本人 | 日本語 | 日本語学科 |
|-----|-------|--------------|--------------|----------|--------------------------------------|----------------------|------------------------|-------|
| 正解 | 0 14人 | 1 22人 | 1 27人 | 0 30人 | 4 20人 | 4 16人 | 0 27人 | 5 28人 |
| 誤 | 2 16人 | 0 6人 2 2人 | 0 1人 2 2人 | | 0 1人 2 1人 3 1人 4 1人 5 6人 | 0 7人 2 4人 3 3人 | 記入無 1人 2 1人 3 1人 | 0 2人 |
| 正解率 | 0.47 | 0.73 | 0.9 | 1 | 0.67 | 0.53 | 0.9 | 0.93 |

録音と聞き取りは、よく似た傾向を示している。学習者のアクセントは、ある程度の傾向や安定性があるのである。

3.3.2 連語アクセント

連語については、全体を1まとまりに発音した場合と、2語を別別に発音した場合の2種類の発音のどちらを選ぶかを調べた。アクセント核については正しい発音だけを聞かせた。下の表は、1まとまりに発音した方を選んだ人数である。

「行く場所」が、1まとまりの発音がもっとも多い。長さが短いこととよく使う表現だからであろう。

被調査者の発音と比べて、1まとまりの発音を選んだ人が多い。自然な発音としては1まとまりがいいと思っている人もかなりあるが、自分で発音するときはばらばらにしてしまうことが多いであろう。

| | 教えた先生 | 見たい映画 | 働く会社員 | 辞めた会社 | 行く場所 | 食べる魚 |
|----|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 日本 | 20人 | 6人 | 19人 | 10人 | 24人 | 6人 |
| 台湾 | 15人 | 10人 | 18人 | 15人 | 22人 | 13人 |

3.4 無意味語アクセント

無意味語の聞き取りについては、アクセント記号を知らない被調査者がいるので、アンケートの前に簡単に説明をした。説明の内容は、日本語のアクセントが高低アクセントであること、名詞の型の一覧表、高いところに上線を引く記号、いくつかの实在の単語と無意味語の実例をあげた記号の付け方である。

この調査は、マママなどの無意味語を発音したもの（2回繰り返す）を聞き、その発音に一致すると思うアクセント記号を選択肢の中から選ぶものである。選択肢は、標準語にある型をすべてあげた。たとえば、5拍語なら、回答者は、まままま、まままま、まままま、ままま、まままま、ままままの5種類の選択肢の中から選ぶ。

調査結果からわかるように、単語が長くなるにつれて、正解率が下がる。従来の研究の結果と同じである。

| | まま LH | まま HL | ままま HLL | ままま LHH | ままま LHL | まままま LHLL | まままま HLLL | まままま LHHH | まままま LHHL |
|----|-------|-------|---------|---------|---------|------------------------|-----------|-----------|----------------|
| 正解 | 29人 | 29人 | 25人 | 27人 | 23人 | 21人 | 20人 | 21人 | 18人 |
| 誤 | | | 未記入 4人 | 未記入 2人 | 未記入 6人 | 未記入 5人 1 3人 3 2人 | 未記入 10人 | 未記入 9人 | 未記入 8人 2 3人 |

| 日本 | まままま LHLL | まままま HLLL | まままま LHHH | まままま LHLL | まままま LHHL |
|----|------------------------|----------------|----------------|--------------------------------|----------------|
| 正解 | 16人 | 19人 | 21人 | 18人 | 19人 |
| 誤 | 未記入 9人 2 1人 4 3人 | 未記入 9人 3 1人 | 未記入 7人 0 1人 | 未記入 7人 1 1人 2 1人 4 2人 | 未記入 9人 3 1人 |

| 台湾 | まま LH | まま HL | ままま HLL | ままま LHH | ままま LHL | まままま LHLL | まままま HLLL | まままま LHHH |
|----|----------------|-------|----------------|---------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 正解 | 28人 | 30人 | 27人 | 28人 | 26人 | 26人 | 25人 | 27人 |
| 誤 | 未記入 1人 1 1人 | | 未記入 2人 2 1人 | 未記入 2人 | 未記入 3人 3 1人 | 未記入 3人 1 1人 | 未記入 4人 2 1人 | 未記入 2人 3 1人 |

| 台湾 | まままま LHLL | まままま LHLL | まままま HLLL | まままま LHHH | まままま LHLL | まままま LHHH |
|----|------------------------|--|----------------|----------------|--------------------------------|----------------|
| 正解 | 23人 | 21人 | 24人 | 27人 | 23人 | 25人 |
| 誤 | 未記入 5人 1 1人 2 1人 | 未記入 4人 1 2人 2 1人 4 1人 5 1人 | 未記入 5人 2 1人 | 未記入 2人 3 1人 | 未記入 4人 2 1人 3 1人 4 1人 | 未記入 4人 0 1人 |

3.5 日本在住者と台湾在住者の差

日本在住者と台湾在住者の差を見ておこう。下表から、被調査者の発音（単語）・聞き取り（単語）・無意味語のどれをとっても台湾在住者のほうが成績がよい。（以下、成績を考えるときには連語を除く）。また、標準偏差が日本のほうが大きく、成績がばらついていることが分かる。

| | 日本発音(単語) | 台湾発音(単語) | 差 | t 検定(Welch) 両側 p 値 |
|-------|----------|----------|-------|--------------------|
| n | 660 | 660 | | 0.0000 |
| 平均正解率 | 0.768 | 0.811 | 0.042 | |
| 標準偏差 | 0.213 | 0.158 | 0.054 | |

| | 日本聞き取り(単語) | 台湾聞き取り(単語) | 差 | t 検定(Welch) 両側 p 値 |
|-------|------------|------------|-------|--------------------|
| n | 638 | 660 | | 0.0006 |
| 平均正解率 | 0.770 | 0.806 | 0.036 | |
| 標準偏差 | 0.213 | 0.164 | 0.049 | |

| | 日本無意味語 | 台湾無意味語 | 差 | t 検定(Welch) 両側 p 値 |
|-------|--------|--------|-------|--------------------|
| n | 638 | 660 | | 0.0000 |
| 平均正解率 | 0.480 | 0.545 | 0.066 | |
| 標準偏差 | 0.144 | 0.080 | 0.064 | |

また、単語については、発音と聞き取りを同じ22単語について行っているため、両者を比較すると、台湾のほうが一致している単語の数が多。台湾のほうが回答が安定しており、間違っている場合も含めて、ある単語のアクセントを1つに決めて覚えていることがわかる。

| | | |
|----|----------|------|
| | 一致項目数/22 | 標準偏差 |
| 日本 | 15.7 | 3 |
| 台湾 | 18 | 3 |

上に述べたように、日本語能力試験の差は日本と台湾で大差がなかった。それにもかかわらず台湾のほうがアクセントに関する点数が高いのは、台湾では大学の日本語専攻で日本語を学んだ人が多いのに対して、日本ではさまざまな教育機関で学んだ人があったためと、日本では東京ではなく大阪に住んでいることが関係していると思われる。教育機関については6節でも触れる。

3.6 点数の分布

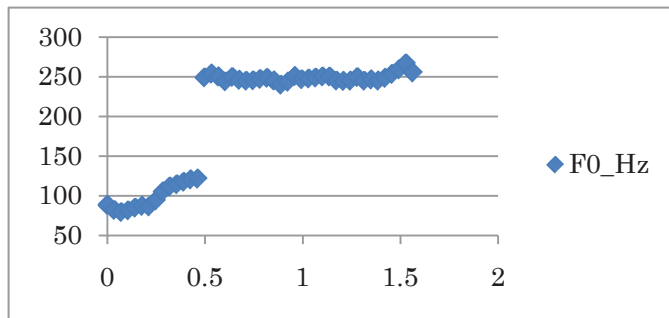
個人別に点数がどのように分布しているのかを見てみる。表からわかるように、録音点数・聞き取り点数は、点数の低い人から高い人まで幅広く分布しているが、無意味語は満点の人が非常に多い。自然下降を含む、自然な音調ではなく、高低2段階の発音を聞かせたためだと思われる。下は、被調査者に聞かせた「ママママ」のF0曲線である。「ママママ」の部分ではほぼ下降が見られないことがわかる。

日本

| | | | | | | | | | | | |
|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|
| 録音点数 人数 | 12 2 | 13 1 | 14 3 | 15 2 | 16 6 | 17 3 | 18 5 | 19 2 | 20 2 | 21 2 | 22 1 |
| 聞き取り点数 人数 | 11 1 | 14 3 | 15 4 | 16 6 | 17 3 | 18 4 | 19 4 | 20 1 | 21 3 | | |
| 無意味語点数 人数 | 5 2 | 6 5 | 7 2 | 8 2 | 9 1 | 10 1 | 11 1 | 13 4 | 14 11 | | |

台湾

| | | | | | | | | | | | |
|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|
| 録音点数 人数 | 8 1 | 13 1 | 14 2 | 15 2 | 16 2 | 17 3 | 18 7 | 19 4 | 20 1 | 21 3 | 22 4 |
| 聞き取り点数 人数 | 11 2 | 12 1 | 14 1 | 15 1 | 16 4 | 17 3 | 18 5 | 19 4 | 20 4 | 21 2 | 22 3 |
| 無意味語点数 人数 | 2 1 | 3 1 | 6 2 | 7 1 | 9 1 | 11 1 | 12 2 | 13 2 | 14 19 | | |



3.7 被調査者の発音（単語）・聞き取り（単語）・無意味語アクセントの点数の相関

被調査者の発音（単語）・聞き取り（単語）・無意味語アクセントの点数の相関を見ておこう。スピアマンの順位相関係数を求め、それによって検定を行った。表の右上三角はP値、左下三角は判定（*：5% **：1%）である。以下、本論文で相関係数を求める場合はすべてスピアマンの順位相関係数による。

| 日本 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 一致度点数 | 無意味語点数 |
|--------|------|--------|--------|--------|
| 録音点数 | - | 0.0079 | 0.0011 | 0.8403 |
| 聞き取り点数 | ** | - | 0.0000 | 0.0310 |
| 一致度点数 | ** | ** | - | 0.1180 |
| 無意味語点数 | | * | | - |

| 台湾 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 一致度点数 | 無意味語点数 |
|--------|------|--------|--------|--------|
| 録音点数 | - | 0.0005 | 0.0000 | 0.4739 |
| 聞き取り点数 | ** | - | 0.0001 | 0.0253 |
| 一致度点数 | ** | ** | - | 0.1580 |
| 無意味語点数 | | * | | - |

録音・聞き取り・両者の一致度の点数は非常に近い関係にある（正の相関）が、無意味語の点数だけは他の点数と強い相関が認められない。無意味語は満点の被調査者が多く、点数の分布が他と違うこと（3.6）と、かりにアクセント型の正確な聞き取りができなくても、実在する単語については、不十分だが、ある程度は正しい発音や聞き取りができるということであろう。

4 被調査者の学習歴とアクセント点数の相関関係

被調査者の学習歴とアクセント点数の相関関係を以下に示す。下表からわかるように、強い相関を示す項目は少ない。学習期間・日本への到着年齢（日本在住）、学習期間・日本人との接触程度・日本滞在の有無（台湾在住）がある程度の相関を示すだけである。日本への到着年齢のみが負の相関、他は全て正の相関である。一応長く日本語を学習していれば、ある程度はアクセントも上達する、と言えよう。日本在住者は関西に住んでいるが、日本人との接触が多い人にアクセント点数が低くなっているわけではない。この範囲では、関西在住で、周囲の日本人との接触が多くても、アクセントには影響を与えていないようである。

| 順位相関係数の検定 [右上三角:P値/左下三角:判定 (*:5% **:1%)] | | | | | | | | | |
|--|------|--------|--------|-----------|--------|--------|-----------|-----------|------|
| 日本 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 無意味語点数 | 日本語学習開始年齢 | 学習期間 | 日本到着年齢 | 日本人との接触程度 | 日本滞在経験の有無 | 渡日回数 |
| 録音点数 | - | 0.0079 | 0.8403 | 0.3421 | 0.1827 | 0.0466 | 0.5761 | - | - |
| 聞き取り点数 | ** | - | 0.0310 | 0.9830 | 0.0052 | 0.1949 | 0.9417 | - | - |
| 無意味語点数 | | * | - | 0.9032 | 0.7437 | 0.8013 | 0.4807 | - | - |
| 日本語学習開始年齢 | | | | - | 0.8772 | 0.0803 | 0.9228 | - | - |
| 学習期間 | | ** | | | - | 0.5214 | 0.2764 | - | - |
| 日本到着年齢 | * | | | | | - | 0.9256 | - | - |
| 日本人との接触程度 | | | | | | | - | - | - |
| 日本滞在経験の有無 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 渡日回数 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

| 順位相関係数の検定 [右上三角:P値/左下三角:判定 (*:5% **:1%)] | | | | | | | | | |
|--|------|--------|--------|-----------|--------|------------|-----------|-----------|--------|
| 台湾 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 無意味語点数 | 日本語学習開始年齢 | 学習期間 | 到着年齢(日本のみ) | 日本人との接触程度 | 日本滞在経験の有無 | 渡日回数 |
| 録音点数 | - | 0.0005 | 0.4739 | 0.9707 | 0.0011 | - | 0.0271 | 0.3728 | 0.7264 |
| 聞き取り点数 | ** | - | 0.0253 | 0.3739 | 0.0408 | - | 0.4992 | 0.1042 | 0.1694 |
| 無意味語点数 | | * | - | 0.1710 | 0.4646 | - | 0.7420 | 0.0056 | 0.3045 |
| 日本語学習開始年齢 | | | | - | 0.1009 | - | 0.3155 | 0.1443 | 0.3588 |
| 学習期間 | ** | * | | | - | - | 0.1022 | 0.0353 | 0.5681 |
| 到着年齢(日本在住のみ) | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 日本人との接触程度 | * | | | | | - | - | 0.5721 | 0.3332 |
| 日本滞在経験の有無 | | | ** | | * | - | | - | - |
| 渡日回数 | | | | | | | | | - |

5 被調査者の日本語力とアクセント点数の相関関係

被調査者の日本語力と、アクセント点数との相関を以下に示す。話す能力～総合的な能力までは自己判定である。

日本語力に関する項目も、アクセント点数と相関を示す項目は非常に少ない。わざわざ日本で、発音能力・日本語能力試験が、台湾で、日本語能力試験がある程度の相関（いずれも正の相関）を示すだけである。

今の日本語能力試験ではアクセント関係の問題を全くないため、日本語能力試験の成績は、学習者の全体的な日本語能力を十分には測定できていないのである。しかしながら、弱いながらもアクセント点数と日本語能力試験が相関を示すことは興味深い。

| 順位相関係数の検定 [右上三角:P値/右下三角:判定 (*:5% **:1%)] | | | | | | | | | | |
|---|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|-----------|
| 日本 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 無意味語点数 | 1.話す能力 | 2.聞く能力 | 3.読む能力 | 4.書く能力 | 5.発音能力 | 6.総合的な能力 | 7.日本語能力試験 |
| 録音点数 | - | 0.0079 | 0.8403 | 0.1736 | 0.1513 | 0.3520 | 0.9919 | 0.0422 | 0.1604 | 0.2633 |
| 聞き取り点数 | ** | - | 0.0310 | 0.6202 | 0.2062 | 0.0617 | 0.2199 | 0.0420 | 0.0676 | 0.0101 |
| 無意味語点数 | | * | - | 0.5806 | 0.1849 | 0.1586 | 0.5405 | 0.1682 | 0.3351 | 0.2464 |
| 1.話す能力 | | | | - | 0.0000 | 0.0005 | 0.0018 | 0.0005 | 0.0001 | 0.0257 |
| 2.聞く能力 | | | | ** | - | 0.0000 | 0.0005 | 0.0000 | 0.0000 | 0.0121 |
| 3.読む能力 | | | | ** | ** | - | 0.0000 | 0.0000 | 0.0000 | 0.0137 |
| 4.書く能力 | | | | ** | ** | ** | - | 0.0001 | 0.0000 | 0.0199 |
| 5.発音能力 | * | * | | ** | ** | ** | ** | - | 0.0000 | 0.0740 |
| 6.総合的な能力 | | | | ** | ** | ** | ** | ** | - | 0.0482 |
| 7.日本語能力試験 | | * | | * | * | * | * | | * | - |

| 順位相関係数の検定 [右上三角:P値/右下三角:判定 (*:5% **:1%)] | | | | | | | | | | |
|---|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|-----------|
| 台湾 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 無意味語点数 | 1.話す能力 | 2.聞く能力 | 3.読む能力 | 4.書く能力 | 5.発音能力 | 6.総合的な能力 | 7.日本語能力試験 |
| 録音点数 | - | 0.0005 | 0.4739 | 0.9821 | 0.7756 | 0.2175 | 0.2165 | 0.3778 | 0.1684 | 0.0054 |
| 聞き取り点数 | ** | - | 0.0253 | 0.2472 | 0.3117 | 0.6635 | 0.8058 | 0.6744 | 0.5606 | 0.1972 |
| 無意味語点数 | | * | - | 0.2731 | 0.8054 | 0.7243 | 0.2581 | 0.9655 | 0.6724 | 0.2162 |
| 1.話す能力 | | | | - | 0.0019 | 0.0114 | 0.0000 | 0.0026 | 0.0001 | 0.2295 |
| 2.聞く能力 | | | | ** | - | 0.0008 | 0.0101 | 0.0053 | 0.0001 | 0.1800 |
| 3.読む能力 | | | | * | ** | - | 0.0005 | 0.0027 | 0.0015 | 0.0427 |
| 4.書く能力 | | | | ** | * | ** | - | 0.0003 | 0.0000 | 0.0482 |
| 5.発音能力 | | | | ** | ** | ** | ** | - | 0.0000 | 0.0123 |
| 6.総合的な能力 | | | | ** | ** | ** | ** | ** | - | 0.0054 |
| 7.日本語能力試験 | ** | | | | | * | * | * | ** | - |

6 アクセントについて受けた指導とアクセント点数の相関関係

アクセントについて受けた指導とアクセント点数の相関関係もあまり明確ではない。「アクセントに関する授業を受けた」とする人中には、通常の授業の中でアクセントにいくらか触れることがあった場合も含むのではないだろうか。質問のしかたに問題があった可能性が高い。但し、日本より台湾で授業を受けた人が圧倒的に多い。日本在住ではアクセントの授業を受けたとする人9名・受けなかった人20名なのに対し、台湾在住では受けたとする人21名・受けなかった人5名・不明4名である。

| 順位相関係数の検定 [右上三角:P値/左下三角:判定 (*:5% **:1%)] | | | | | | | | | | |
|---|------|--------|--------|---------------------|----------------|--------------------------|--------------------------|------------------------------------|--|--|
| 日本 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 無意味語点数 | 1.アクセントに関する授業の受講の有無 | 2.アクセント授業の練習期間 | 3.一般の日本語教師にアクセントを訂正された程度 | 4.教師以外の日本人にアクセントを訂正された程度 | 5.自国で使っている教科書や辞書に、アクセントの記号が書いてあったか | | |
| 録音点数 | - | 0.0079 | 0.8403 | 0.8858 | 0.6018 | 0.5178 | 0.5453 | 0.1474 | | |
| 聞き取り点数 | ** | - | 0.0310 | 0.0893 | 0.7326 | 0.4412 | 0.8951 | 0.0076 | | |
| 無意味語点数 | | * | - | 0.2983 | 0.4678 | 0.8647 | 0.6098 | 0.5912 | | |
| 1.アクセントに関する授業の受講の有無 | | | | - | | 0.2439 | 0.4568 | 0.0363 | | |
| 2.アクセント授業の練習期間 | | | | | - | 0.7143 | 0.5133 | 0.3739 | | |
| 3.一般の日本語教師にアクセントを訂正された程度 | | | | | | - | 0.0017 | 0.3657 | | |
| 4.教師以外の日本人にアクセントを訂正された程度 | | | | | | ** | - | 0.8721 | | |
| 5.自国で使っている教科書や辞書に、アクセントの記号が書いてあったか | | ** | | * | | | | - | | |

| 順位相関係数の検定 [右上三角:P値/左下三角:判定 (*:5% **:1%)] | | | | | | | | | |
|--|------|--------|--------|----------------------|-----------------|---------------------------|---------------------------|-------------------------------------|--|
| 台湾 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 無意味語点数 | 1. アクセントに関する授業の受講の有無 | 2. アクセント授業の練習期間 | 3. 一般の日本語教師にアクセントを訂正された程度 | 4. 教師以外の日本人にアクセントを訂正された程度 | 5. 自国で使っている教科書や辞書に、アクセントの記号が書いてあったか | |
| 録音点数 | - | 0.0005 | 0.4739 | 0.1427 | 0.1483 | 0.0583 | 0.2482 | 0.5196 | |
| 聞き取り点数 | ** | - | 0.0253 | 0.6790 | 0.0626 | 0.5858 | 0.9883 | 0.5494 | |
| 無意味語点数 | | * | - | 0.0844 | 0.1095 | 0.6798 | 0.0086 | 0.7470 | |
| 1. アクセントに関する授業の受講の有無 | | | | - | | 0.0056 | 0.0544 | 0.3330 | |
| 2. アクセント授業の練習期間 | | | | | - | 0.5739 | 0.1708 | 0.5071 | |
| 3. 一般の日本語教師にアクセントを訂正された程度 | | | | ** | | - | 0.0442 | 0.0000 | |
| 4. 教師以外の日本人にアクセントを訂正された程度 | | | ** | | | * | - | 0.2654 | |
| 5. 自国で使っている教科書や辞書に、アクセントの記号が書いてあったか | | | | | | | | - | |

授業受講の有無は2値なので、念のためt検定（ウェルチ）にかけたところ、 $P < 0.05$ で有意差はほとんどの項目でなかったが、例外的に、台湾在住の無意味語のみ両側 p 値=0.0142 で有意差がみられた。

次に、教育を受けた機関との関係を調べるために、台湾の大学で日本語教育を受けたことがあるかどうかによって、アクセント点数・日本語能力試験の級に差があるかどうかを見てみた。日本語能力試験は1級を5、2級を4、3級を3、4級を2で計算した。

| 日本 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|-------|------|-------|-----|----|--------|------|--------|-----|----|--------|-------|-------|-----|----|------|------|-------|
| 機関 | n | 録音点数 | 標準偏差 | 両側P値 | 機関 | n | 聞き取り点数 | 標準偏差 | 両側P値 | 機関 | n | 無意味語点数 | 標準偏差 | 両側P値 | 機関 | n | 能力試験 | 標準偏差 | 両側P値 |
| 非大学 | 18 | 16.5 | 2.92 | 0.36 | 非大学 | 18 | 16.17 | 2.33 | 0.023* | 非大学 | 18 | 11.28 | 3.446 | 0.181 | 非大学 | 18 | 3.44 | 1.17 | 0.41 |
| 大学 | 11 | 17.36 | 2.11 | | 大学 | 11 | 18.18 | 2.04 | | 大学 | 11 | 9.364 | 3.67 | | 大学 | 11 | 3.82 | 1.17 | |
| 台湾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機関 | n | 録音点数 | 標準偏差 | 両側P値 | 機関 | n | 聞き取り点数 | 標準偏差 | 両側P値 | 機関 | n | 無意味語点数 | 標準偏差 | 両側P値 | 機関 | n | 能力試験 | 標準偏差 | 両側P値 |
| 非大学 | 4 | 13.5 | 4.04 | 0.088 | 非大学 | 4 | 13.75 | 3.77 | 0.091 | 非大学 | 4 | 9 | 6 | 0.34 | 非大学 | 4 | 2.25 | 1.09 | 0.065 |
| 大学 | 26 | 18.5 | 2.44 | | 大学 | 26 | 18.35 | 2.42 | | 大学 | 26 | 12.46 | 2.94 | | 大学 | 26 | 3.73 | 1.08 | |

大学か非大学かでアクセントの点数にあまり大きな差はないが、台湾については、無意味語を除き、両側 p 値が0.05よりは大きいものの、0.10よりは小さい。一定の相関関係を持っていそうである。一方、日本については、聞き取り点数のところに、大学で学習した人の方が点が高く、有意差が認められるだけで、その他の項目についてはまったく相関関係がなさそうである。

実は、台湾の「大学」はすべて日本語専攻であるが、日本の「大学」は3名のみが日本語専攻で、残る8名は日本語専攻ではない。台湾の大学の日本語専攻学習者の場合、学校で「発音」の授業が設けられているか、もしくは、会話の授業で教師から学習者のアクセントを矯正してもらえることが多い。大学でも非日本語専攻学習者の場合は発音の授業がないことが多く、アクセントの指導はほとんどないか、せいぜい二、三週間程度で終わってしまう場合が多いようである。日本国内の日本語学校ではアクセントを教えることがほとんどない。従って、台湾で指導を受けなかった人はアクセントについてよく知らない人が非常に多いと思われる。しかも日本では関西に住んでいるため、周囲にはさまざまなアクセントがあって、混乱してしまうかもしれない。

先の、アクセントの授業があったかどうかという質問の回答とアクセントの点数ははっきりした関係が見られなかったが、日本語専攻かどうかということがアクセントの点数とある程度の相関が見られることから、やはりアクセントの授業は有効であると考えられる。

7 アクセントに関する知識とアクセント点数の相関関係

被調査者のアクセントに関する知識がどの程度あるかを調べた。またそれがアクセント点数と相関があるかどうかを調べた。

アクセントに関する知識は、以下のようにまとめられる。いくつか特徴的なことをあげると、「8 アクセント辞典」の存在は台湾在住

者の間ではよく知られているのに対して、日本在住者の間では知っている人が少ない。「9 アクセントは予測できない」ということを知っている人が意外に少ない。「14. マス形のアクセントは同じ・15. 「する」と「来る」はアクセントが違う」のような具体的な単語のアクセントについては知らない人が多い。

| | | | | | | | | |
|--------|------------------|----------------------|----------------------------|-------------------|---------------------|---------------------------|-----------------------|--------------------|
| | 1. 日本語にはアクセントがある | 2. 日本語のアクセントは高低アクセント | 3. アクセントは単語の意味を区別する(雨-飴など) | 4. アクセントは地方によって違う | 5. アクセントはどこで下がるかが大切 | 6. アクセントは平板-頭高-中高-尾高の型がある | 7. アクセントは単語によって決まっている | 8. 「アクセント辞典」で調べられる |
| 日本(29) | 27 | 24 | 29 | 27 | 27 | 23 | 28 | 12 |
| 台湾(30) | 30 | 21 | 30 | 25 | 28 | 27 | 30 | 26 |

| | | | | | | | |
|--------|---------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------------------------|--------------------------|------------------|------------------------|
| | 9. アクセントは予測できない(覚える必要がある) | 10. アクセントは言葉のまとまりをあらわす機能がある | 11. 複合語でアクセントが変わる | 12. 「花」と「鼻」のアクセントは後ろに言葉が来たとき違う | 13. 「食べる」と「食べた」はアクセントが違う | 14. マス形のアクセントは同じ | 15. 「する」と「来る」はアクセントが違う |
| 日本(29) | 12 | 24 | 26 | 21 | 20 | 14 | 14 |
| 台湾(30) | 9 | 27 | 29 | 21 | 27 | 13 | 19 |

知識とアクセント点数の相関関係はあまりない。アクセント知識の質問項目がよくなかったのかもしれない。わずかに、日本の聞き取りの点数に相関が見られるだけである。

| 順位相関係数の検定 [右上三角:P値/右下三角:判定(*:5% **:1%)] | | | | | 順位相関係数の検定 [右上三角:P値/右下三角:判定(*:5% **:1%)] | | | | |
|---|------------|--------|--------|--------|---|-----------|--------|--------|--------|
| | 日本・アクセント知識 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 無意味語 | | 台湾アクセント知識 | 録音点数 | 聞き取り点数 | 無意味語 |
| 日本・アクセント知識 | - | 0.3566 | 0.0066 | 0.3514 | 台湾アクセント知識 | - | 0.9416 | 0.0596 | 0.0765 |
| 録音点数 | | - | 0.0079 | 0.8403 | 録音点数 | | - | 0.0005 | 0.4739 |
| 聞き取り点数 | ** | ** | - | 0.0310 | 聞き取り点数 | | ** | - | 0.0253 |
| 無意味語 | | | * | - | 無意味語 | | | * | - |

8 アクセント・アクセント学習に関する被調査者の考え

被調査者の、日本語アクセントやアクセント学習に関して、小河原(1997)・戸田(2008)によって質問項目を作成した。

全53項目からなる。

- ①日本語アクセント・アクセント教育に対する現段階の考え 12項目
- ②日本語アクセントに対する学習願望 6項目
- ③日本語アクセントに対する自己評価 9項目
- ④現段階日本語アクセント学習実況 7項目
- ⑤モデル聴取 3項目
- ⑥日本語アクセントを勉強する時の口意識 5項目
- ⑦日本語アクセントに対する他者意識 3項目
- ⑧教師がアクセントを教えない原因-学習者側の推測 6項目
- ⑨被調査者の日本語アクセントに対する将来の展望 2項目である。

回答は、以下の5段階の選択肢によって行った。

選択肢…⑤そう思う・④ややそう思う・③どちらとも言えない・②あまりそう思わない・①そう思わない・分からない。

各項目の調査結果(被調査者の平均値)を以下に示す。

①日本語アクセント・アクセント教育に対する現段階の考え

| 項目 | 日本平均値 | 台湾平均値 |
|----------------------------------|-------|-------|
| 正しいアクセントで発音することは難しい | 3.4 | 2.9 |
| アクセントの違いを聞き取ることは難しい | 3.23 | 3.13 |
| 外国人にとって日本語のアクセントを身につけるのは不可能だ | 2.23 | 1.83 |
| 教師は、学生にアクセントを教えるべきだ | 4.46 | 4.2 |
| 日本語の辞書と教科書には、アクセントの記号を書くべきだ | 4.46 | 4.7 |
| アクセントは、最初から教えるべきだ | 4.63 | 4.7 |
| アクセントを勉強する時間があったら他のことを勉強したい | 2.7 | 1.83 |
| アクセントは、暇な人だけが勉強すればいい | 2.9 | 2.36 |
| 上級の学生は、アクセントも勉強するべきだ | 4.23 | 4.36 |
| アクセントを勉強するかどうかは、学生が自分で決めればいい | 2.6 | 2.2 |
| 教科書とテープだけでは、アクセントは勉強できない | 2.96 | 3.23 |
| 外国人は、東京のアクセント（標準語アクセント）だけ勉強すればいい | 2.73 | 3.03 |

アンケート調査から見ると、現下の台湾人日本語学習者は日本語アクセントの勉強に対し、あまり難しくないと考えている人の比率が高い。台湾在住者より日本在住者のほうが難しいと思っている人の比率が少し高い。

「アクセントは、最初から教えるべきだ」の質問に対し、日本・台湾とも平均値が高い。つまり、学習者はアクセントが言語学習の中で、大切な部分だと思っているのだろう。

日本在住の学習者は「東京のアクセント（標準語アクセント）だけ勉強すればいい」に対し、台湾在住の学習者より比率が低い。全員関西地方に在住しているため、地方アクセントの重要性を体得できるからであろう。

アクセントの教育に関しては、「教科書／辞書にアクセントの記号を書くべきだ」「アクセントは最初から教えるべきだ」と考える者が多く、学習初期からのアクセント指導を望んでいると言える。これはまた、自分が受けてきたアクセント教育への改善の希望であるとも言えるだろう。

②日本語アクセントに対する学習願望

| 項目 | 日本平均値 | 台湾平均値 |
|---|-------|-------|
| 日本語のアクセントが上手になるために努力したい | 4.06 | 4.23 |
| 現状に満足しないので少しでも正確なアクセントを目指して努力したい | 4.2 | 4.43 |
| アクセントの授業やアクセントの指導を増やしてほしい | 3.93 | 4.16 |
| 日本語学習の中でアクセントの習得は非常に重要である | 4.43 | 4.63 |
| もしアクセントを勉強するなら、東京のアクセント（標準語アクセント）を勉強したい | 3.76 | 3.93 |
| もし日本に住むとしたら、その土地のアクセントを勉強したい | 3.9 | 4.2 |

表から見ると、台湾在住の学習者は日本語アクセントに対する学習願望が日本在住者よりやや高い。それは、後者より録音調査の点数が高い原因のひとつであるかもしれない。学習願望が高ければ、アクセント向上意欲も高くなると思っている。後者より日本語アクセントが優れる結果も見られる。

③日本語アクセントに対する自己評価

| 項目 | 日本平均値 | 台湾平均値 |
|---------------------------------|-------|-------|
| うまくアクセントできているかいつも意識している | 3.19 | 3.46 |
| 自分のアクセントの弱点をいつも意識している | 3.13 | 3.75 |
| 自分のアクセントをいつも意識して発音している | 3.48 | 3.93 |
| アクセントやイントネーションに気をつけて発音する | 3.42 | 4.03 |
| 自分が前よりどのくらいアクセントがうまくなったか確認する | 3 | 3.37 |
| 教師からのアクセントのアドバイスや説明を利用する | 3.4 | 3.93 |
| 教師やテープのアクセントのまねをする | 4.33 | 4.43 |
| 自分で自分のアクセントに納得するまで自分のアクセントを修正する | 3.86 | 4.1 |
| アクセントの上手な友人がなぜ上手なのか考える | 3.55 | 3.7 |

自己評価調査から見ると、台湾在住の学習者は日本在住の学習者より、自分のアクセントやイントネーションなどを、より高く意識している。自分のアクセント変化を確認し、修正する比率も高い。録音調査の結果とまとめてみると、日本語アクセントに対する自己評価が高ければ、日本語アクセントの点数も高い。台湾人日本語学習者は日本語を学ぶとき、教師やテープのアクセントのまねをする比率も高くみえる。

④現段階日本語アクセント学習実況

| 項目 | 日本平均値 | 台湾平均値 |
|----------------------------------|-------|-------|
| 教師や友人にどうやって正しいアクセントで発音するのか教えてもらう | 3.53 | 4.03 |
| 目標を持ってアクセントを練習している | 3.03 | 3.33 |
| アクセントの教材や参考書を読んだり、利用する | 2.93 | 3.43 |
| 普段気がついたときはいつでも一人でアクセントの練習をする | 2.86 | 3.23 |
| 自分のアクセントに少しずつ変化させて、修正する | 3.64 | 3.93 |

| | | |
|-----------------------|------|------|
| アクセントの目標が達成できたか確認する | 3.24 | 3.46 |
| 自分のアクセントが正しいかどうか誰かに聞く | 3.56 | 3.58 |

台湾在住者の平均値は全体的に日本在住の学習者より高い。台湾在住の学習者は日本語アクセントの学習に対し、目標を持って、教材や参考書などを利用し、練習する比率が高い。

⑤モデル聴取

| 項目 | 日本平均値 | 台湾平均値 |
|-----------------------------------|-------|-------|
| 自分で何度も繰り返し発音する | 3.56 | 3.6 |
| LLやテープレコーダーを利用してアクセントを練習する | 3.36 | 3.26 |
| 何度もモデルアクセントを聞いてアクセントのイメージを覚えて発音する | 3.73 | 3.63 |

これについてはとくに日本と台湾とで差はない。

⑥日本語アクセントを勉強する時の口意識

| 項目 | 日本平均値 | 台湾平均値 |
|--|-------|-------|
| 教師のアクセントを聞いてアクセントをまねする | 4.2 | 4 |
| アクセントを意識して発音する | 4.03 | 3.93 |
| アクセント練習のときは大きな声ではっきりと発音する | 3.5 | 3.96 |
| 他の学習者のアクセントと自分のアクセントを比較する | 3.83 | 3.86 |
| 教師にアクセントを直されたら、直される前のアクセントとは異なったアクセントをしている | 4.06 | 4.2 |

調査結果から見ると、台湾在住の学習者は日本在住の学習者より声を出し、はっきり発音する比率が高い。

⑦日本語アクセントに対する他者意識

| 項目 | 日本平均値 | 台湾平均値 |
|--------------------------------------|-------|-------|
| 自分のアクセントが下手だと思ったり、間違ったと思ったり言い直して発音する | 3.96 | 4.3 |
| 日本人や他の学習者からの、自分のアクセントに対する評価を気にする | 3.86 | 3.96 |
| 母語と日本語でアクセントの類似点、相違点を比較する | 3.26 | 3.4 |

台湾在住の学習者は日本語アクセントに対する他者意識が日本在住学習者より比較的高い。教師をはじめとした周囲の日本人の評価が重要であると考えられる。外国人の日本語の発音に対する日本人の評価を調査した小河原（1993）では、発音能力が高い者に対するほど評価が厳しいという結果になっている。初級日本語学習者の場合ではその評価が甘いため、学習者のアクセント学習に対する意欲に悪影響を及ぼす可能性がある。よって、他者意識はアクセント学習に対する影響が強いことがわかる。

⑧教師がアクセントをくわしく教えない原因（学習者側の推測）

| 項目 | 日本平均値 | 台湾平均値 |
|-----------------------|-------|-------|
| 教科書に書いていないから | 3.37 | 3.3 |
| 試験に出ないから | 3.62 | 3.6 |
| 日本語のアクセントはあまり大切ではないから | 2.26 | 2.73 |
| アクセントを練習させる時間がないから | 3.03 | 2.96 |
| アクセントを教えても、学生はできないから | 2.37 | 2.5 |
| 自分のアクセントに自信がない | 2.88 | 3.06 |

海外における日本語アクセント教育の現状を調査した磯村（2001）では、「教えている」と答えた教師が中国では9割近くにのぼり、タイでは約半数であったが、それ以外の国では「教えていない」という教師が6～7割であった。教えていない教師にその理由を聞いたところ、「自分が知らないから」「自信がないから」という理由が最も多く、これに続いて「教科書に書いていないから」「試験に出ないから」「時間がないから」などであった。「アクセントは大切ではないから」など積極的理由で教えていない者は少なかった。また「アクセントを教えるのは日本人の仕事だから」という理由が高い国もあり（インドネシア、オーストラリアなど）、自分の苦手なアクセント教育を日本人教師に任せているという状況もうかがえる。

今回は学習者側の調査ということで、教師側の実況が不明確なのが本調査の不十分な点である。ただ、今回60名被調査者において、78%（47名）は何らかの日本語アクセントについての授業の経験があるということが分かっているから、ある程度は教師側の実況を正しく推測していると思う。「試験に出ないから」という原因の比率が比較的高いのは、台湾の「試験主義」に悪影響されているためだと思う。

⑨被調査者の日本語アクセントに対する将来の展望

| 項目 | 日本平均値 | 台湾平均値 |
|----------------------------|-------|-------|
| 将来今より日本語のアクセントがうまくなると思う | 4.56 | 4.76 |
| 将来今より正確で自然な日本語で話せるようになると思う | 4.73 | 4.86 |

台湾在住者のほうが、将来今よりうまく、自然な日本語アクセントで話せるようになると思っている。

以上①～⑨の各項目について見てきたが、学習者は日本語アクセント学習に対して、積極的な意欲があることがわかった。学習者に

意欲があっても、教育者からの補助がなければ、学習障害が高まる。今台湾の大学の日本語教師はほぼ学習者に簡単な日本語アクセント記号を教えるが、日本語塾、または専門学校の日本語教師はあまり説明してくれない。教師側が学習者に「気にしなくてもいい」や「今は覚えなくてもいい」などと言って教えないと、結局後から学習者が困ることになる。学習者にアクセント学習の選択肢を与えることが必要である。アクセント学習の機会及び意欲を奪わないでほしい。

9 アクセント・アクセント学習に関する被調査者の考えと、アクセントの点数との相関

前節で見てきた、被調査者のアクセント・アクセント学習に関する考えが、アクセントの点数と相関するかどうかを見ておこう。

やはり相関はあまり明確ではない。その中で台湾の無意味語が他とは違う相関関係を示している。これは台湾では無意味語の聞き取りに満点の人が非常に多く、点数の分布が特殊だったことが関係するかもしれない。左端の番号は調査票の調査順である。

| 順位相関係数の検定 [判定 (*:5% **:1%)。!を付けたのは相関係数がマイナス、付けていないのはプラス] | 日本 | | | 台湾 | | |
|--|------|------|--------|------|------|--------|
| | 録音点数 | 聞取点数 | 無意味語点数 | 録音点数 | 聞取点数 | 無意味語点数 |
| 録音点数 | - | - | - | - | - | - |
| 聞き取り点数 | ** | - | - | ** | - | - |
| 無意味語 | | * | - | | * | - |
| ① 正しいアクセントで発音することは難しい | | | | | | #! |
| ② アクセントの違いを聞き取ることは難しい | | | #! | | | |
| ③ 外国人にとって日本語のアクセントを身につけるのは不可能だ | | | #! | | | #! |
| ④ 教師は、学生にアクセントを教えるべきだ | | | * | | | |
| ⑤ 日本語の辞書と教科書には、アクセントの記号を書くべきだ | | | | | | |
| ⑥ アクセントは、最初から教えるべきだ | | | | | | |
| ⑦ アクセントを勉強する時間があったら他のことを勉強したい | | | | | | |
| ⑧ アクセントは、暇な人だけが勉強すればいい | | **! | | | | |
| ⑨ 上級の学生は、アクセントも勉強するべきだ | | | | | #! | |
| ⑩ アクセントを勉強するかどうかは、学生が自分で決めればいい | | | | | | |
| ⑪ 教科書とテープだけでは、アクセントは勉強できない | #! | | | | | |
| ⑫ 外国人は、東京のアクセント(標準語アクセント)だけ勉強すればいい | | | | | | |
| ⑬ もしアクセントを勉強するなら、東京のアクセント(標準語アクセント)を勉強したい | | | | | | #! |
| ⑭ もし日本に住むとしたら、その土地のアクセントを勉強したい | | | | | | |
| ⑮ 日本語のアクセントが上手になるために努力したい | | | | | | |
| ⑯ 現状に満足しないで少しでも正確なアクセントを目指して努力したい | | | | | | |
| ⑰ アクセントの授業やアクセントの指導を増やしてほしい | | | | | | #! |
| ⑱ 日本語学習の中でアクセントの習得は非常に重要である | | | | | | |
| ⑲ 他の学習者や日本人に笑われないようなアクセントで話したい | | | | | | |
| ⑳ 日本で生活するためには正確なアクセントで話す必要がある | | | | | | |
| 21. 将来今より日本語のアクセントがうまくなると思う | | | | | | #! |
| 22. 将来今より正確で自然な日本語で話せるようになると思う | | | | | | |
| 41. 教科書に書いていないから教師は詳しく教えないのだろう | | | | ** | | #! |
| 42. 試験に出ないから教師は詳しく教えないのだろう | | | | | | #! |
| 43. 日本語のアクセントはあまり大切ではないから教師は詳しく教えないのだろう | | | | #! | | **! |
| 44. アクセントを練習させる時間がないから教師は詳しく教えないのだろう | | | | | | |
| 45. アクセントを教えても、学生はできないから教師は詳しく教えないのだろう | | | | | | |
| 46. 自分のアクセントに自信がない | * | | | | | |
| 47. うまくアクセントできているかいつも意識している | | | | | | |
| 48. 自分のアクセントの弱点をいつも意識している | | | | | | |
| 49. 自分のアクセントをいつも意識して発音している | | | | | | |
| 50. アクセントやイントネーションに気をつけて発音する | | | | | | |
| 51. 自分が前よりどのくらいアクセントがうまくなったか確認する | | | | | | |
| 52. 教師からのアクセントのアドバイスや説明を利用する | | | | | | |
| 53. 教師やテープのアクセントのまねをする | | | | | | |
| 54. 自分で自分のアクセントに納得するまで自分のアクセントを修正する | | | | | | |
| 55. アクセントの上手な友人がなぜ上手なのか考える | | | | | | |
| 56. もしもっと早くからアクセントを習っていたら、今より上手に発音できた | | | | | | |
| 57. アクセントの目標が達成できたら次の目標を立てて練習する | | | | | | |
| 58. 教師や友人にどうやって正しいアクセントで発音するのか教えてもらおう | | | | | | * |
| 59. 目標を持ってアクセントを練習している | | | | | | |
| 60. アクセントの教材や参考書を読んだり、利用する | | | * | | | #! |
| 61. 普段気がついたときはいつでも一人でアクセントの練習をする | | | | | | #! |
| 62. 少しずつ変化させてアクセントを修正する | | | | | | |
| 63. アクセントの目標が達成できたら確認する | | | | | | |
| 64. 自分のアクセントが正しいかどうか誰かに聞く | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|-----|--|--|--|---|--|----|
| 65. 自分で何度も繰り返し発音する | | | | | | | |
| 66. LL やテープレコーダーを利用してアクセントを練習する | | | | | | | |
| 67. 何度もモデルアクセントを聞いてアクセントのイメージを覚えて発音する | **! | | | | | | |
| 68. 自分のアクセントとモデルのアクセントがどう違うか考える | | | | | | | |
| 69. 日本語の教科書を声に出して読む | | | | | | | |
| 70. 教師や日本人に自分のアクセントを直してもらう | | | | | | | *! |
| 71. 教師のアクセントを聞いてアクセントをまねする | | | | | | | |
| 72. アクセントを意識して発音する | | | | | | | |
| 73. アクセント練習のときは大きな声ではっきりと発音する | | | | | | | |
| 74. 他の学習者のアクセントと自分のアクセントを比較する | | | | | | | |
| 75. 教師にアクセントを直されたら、直される前のアクセントとは異なったアクセントをしている | | | | | | | |
| 76. 自分が発音している時、自分のアクセントを聞いている相手の反応を気にする | | | | | | | |
| 77. 自分のアクセントが下手だと思ったり、間違ったと思ったら言い直して発音する | | | | | | | |
| 78. 日本人や他の学習者からの、自分のアクセントに対する評価を気にする | | | | | | | |
| 79. 母語と日本語でアクセントの類似点、相違点を比較する | | | | | * | | |

ここからはあまりはっきりしたことはわからないが、気付いたことを2点述べる。

「③外国人にとって日本語のアクセントを身につけるのは不可能だ」は、無意味語点数では、日本・台湾とも負の相関を示す。高低の記号を理解し、音の高低の聞き取りがある程度できる人にとっては、アクセントを身につけることができると考えられている。

「⑧アクセントは暇な人だけが勉強すればいい」は、日本の聞き取り点数と負の相関を示す。アクセントは重要だと考えている人が、習得が進んでいる。

10 おわりに

日本在住台湾人日本語学習者と台湾在住日本語学習者のアクセントの実態と、アクセントの習得に関する種々の要因について述べた。また、学習者のアクセント・アクセント教育に関する考えについても報告した。

同じレベルの日本語力をもった人を比較したとき、台湾の大学の日本語専攻で日本語を学んだ人のアクセント点数が高かった。台湾の日本語専攻ではアクセントを教えることが多いから、アクセント教育は一定の効果があることを示していると考えられた。その他の要因については、先行研究によってできるだけ多くの質問項目を作成したが、どの要因もそれほど決定的とは考えられなかった。学習者の適性の問題なども含めて、さらに調査研究を行いたい。

現在、台湾において、日本語学習は盛んであるが、もっとも基礎的な音声・アクセント教育は十分に行われていない場合も多い。そのため、全体としては日本語が上手な学習者でも、発音の悪さで評価が低くなったり、聞き手に意味が伝えられなかったりすることもよく見かける。学習者はアクセント教育について、強い意欲を持っているのだから、教師の側もそれにこたえるべきである。「教えてくれなかったから分からない」や「勉強したくてもできなかった」などの状況をなくし、いつでも学習ができるような環境を整えるべきである。

参考文献

- 鮎沢孝子・楊立明・磯村一弘・西沼行博・小高京子 (1998) 「北京語母語話者による東京アクセントの知覚」『音声言語の韻律特徴に関する実験的研究』平成8年度研究報告書 (科学研究費・新プロ)
- 磯村一弘 2001 「海外における日本語アクセント教育の現状」2001年度日本語教育学会秋季大会発表
- 小河原 義朗(1997)「外国人日本語学習者の発音学習における自己評価」『教育心理学研究』45-4, pp. 438-448, 日本教育心理学会
- 邱 俞瑗(2006)「台湾人日本語学習者における日本語単語の聴覚的認知」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第2部 第55号 pp. 267-273
- 郭 獻尹(2007)「台湾における日本語音声教育の調査 - 南部地区の非専攻学習者を中心に - 」『南台科技大学応用日語研究所碩士論文』
- 戸田 貴子(2008)「大人になってからでも発音の習得は可能か」『日本語教育と音声』pp. 43-59, くろしお
- 土岐 哲(2001)「日本語音声教育の課題」『音声研究』第5巻 第1号, 日本音声学会, p. 69-70

- 潘 心瑩(2003)「台湾人の日本語アクセント知覚における諸要因-2 拍語を中心に-」『筑波応用言語学研究 10』第 10 号, pp. 83-96.
- 潘 心瑩(2003)「台湾人における日本語アクセントの知覚-音響音声学的観点から-」『言語学論叢 22』筑波大学一般応用言語学研究室, pp. 1-18.

(よう・ぶんきん 神戸市外国語大学大学院修士課程修了)